

病院内探訪

リハビリテーション科



PL病院リハビリテーション科は2階東側にあり、大きく分けると理学療法部門・作業療法部門・心臓リハビリテーション部門の3部門で構成されます。訓練室の広さは540.0㎡とゆつたりと訓練することができます。また、訓練室からの眺望も良く、大きな窓から見えるゴルフ場の木々の緑がリハビリテーション(以下リハビリ)またはリハに励まれる患者様の心を癒してくれています。

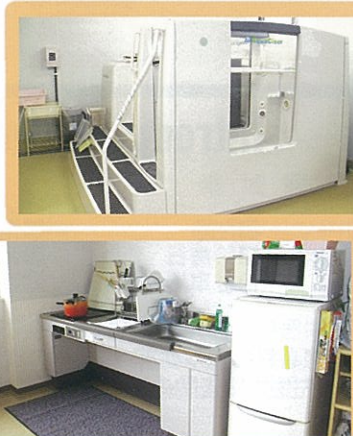
リハビリテーション科のスタッフは、リハビリテーション専門医師杉島裕美子先生、心臓リハビリテーション担当医師の循環器内科白亮先生の下に理学療法士10名、作業療法士4名が常勤勤務し、高水準のリハビリテーションサービスを提供出来るように日々努力しています。理学療法士・作業療法士の臨床経験年数は、20年以上の療法士が3名、10年以上の療法士が4名、5年以上の療法士が6名おり、患者様に安心して治療を受けていただける体制が確立しております。さらに、当病院で導入している電子カルテシステムにより円滑なリハビリテーション診療を進めることが出来ます。どのパソコンからもカルテの閲覧が可能なため、診療のオーダー・検査データ・レントゲン・CT・MRIなどの情報がいつでもすぐに確認でき、リハビリテーションサービスに大きな力を発揮しています。

当科は、脳血管疾患のリハ(一)、運動器リハ(一)、呼吸器リハ(一)、心大血管リハ(一)、ガン患者のリハの施設基準を取得し、急性期に必要な集中したリハビリが提供できる施設基準を取得しております。また、急性期病院では珍しい訪問リハビリテーションも実施しています。当院の訪問リハビリの特徴は、急性期病院を退院し、すぐに介護保険サービスにつながりにくい患者様に対して短期間実施し、生活支援・環境調整・地域連携作りに積極的に協力しスムーズに在宅介護サービスに結びつけられるように取り組んでいます。

当院のリハビリテーション科は、運動器リハ(整形疾患)を受ける患者様が多くいらっしゃいます。また、近年がんのリハビリテーションの重要性が叫ばれる中、当院では積極的にがん患者様のリハビリテーションとして、体力低下の予防・痛みの軽減等に積極的に取り組んでいること、心大血管リハの施設を有し、積極的に心筋梗塞、狭心症などの心臓疾患の患者様に運動指導していることが特徴として挙げられます。

さらに理学療法部門の特徴として、この地域では珍しい水中トレッドミル(簡易水中歩行訓練プール)を装備し、水の浮力や抵抗を利用した下肢筋力のトレーニングが可能です。また、サイベックス(多用用途筋機能評価トレーニング装置・表面筋電図・心肺機能検査等の充実したトレーニング評価機器も備えています。作業療法部門では自宅復帰に向けてより現実的な日常生活動作訓練(ADL訓練)を行うことを心がけてサービス提供しています。現在は和室での立ち上がり動作練習、台所を使用した調理訓練、洗濯や掃除などに必要な動作の獲得、入浴動作方法の獲得など自宅復帰されてから必要と考えられる動作練習を行っています。また、趣味を活かした創作活動や屋上庭園のリハビリコーナーにあるハーブを利用しポプリ作りや芋ほりなどを行っており、からだところこの両方が充実できることを目標に作業療法を実施しています。

リハビリテーション科 室長 中島 敏貴



3つの基本的リハビリテーションサービス

- 1) 医師の指示に基づき、患者様の残存機能や潜在能力及び機能を病態や客観的な検査・測定により評価し、リハビリテーションのゴールを設定する。
(理学的検査測定・作業的検査測定・評価サービス)
- 2) 設定されたゴールに向かって適切な各種の治療法を選択し実施する。
- 3) 実施された治療法の効果を評価しながら、個々の社会復帰の手助けをする。
(身体機能・環境評価、環境改善アプローチ)



医療画像情報システム

株式会社 イメージワン

<http://www.imageone.co.jp>
medical@imageone.co.jp

